



www.ngp.gr.jp

CSRレポート 2010

Corporate Social Responsibility Report

社会から信頼される企業集団をめざして



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合 環境委員会

〒108-0074 東京都港区高輪3-25-33長田ビル2F
TEL.03-5475-1208

2010年10月25日発行

チャレンジ
未来が変わる。
日本が変わる。25



この印刷物はエコマーク認定の60%再生を使用し、大豆油インキで印刷されています。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合

トップメッセージ

持続可能な地球環境保全活動に取り組みながら 新たな環境経営を創造していきます

地球温暖化、環境汚染、資源の枯渇など取り組まなければならない課題が山積みしています。

自動車業界においても、EVやHVなどの次世代環境車の開発が急ピッチで進んでいる中、私ども自動車リサイクル事業者は、新時代に適応した環境経営の高度化が求められています。

NGPは循環型クルマ社会構築のため、リサイクル部品の品質基準を堅持し新技術の研究開発にチャレンジしていきます。今後も使用済み自動車の適正処理と同時に、リサイクル部品の普及・啓蒙活動に全力投球していきます。

供給

自動車依存型社会において、安定的に質の高いリサイクル部品を供給することが私たちの使命です。

環境

自動車リサイクル部品をご利用いただくことで、エネルギー効率と地球環境を維持する社会環境の構築を目指します。

経済

環境問題はもとより、厳しい競争時代の中、より低廉な料金でご利用できるよう、たゆまぬ経営効率化に努めます。

CSRレポート 2010 CONTENTS

トップメッセージ	2
トップコミットメント	3
CSRマネジメント	4
NGPの事業活動	10
ステークホルダーとともに	16
環境マネジメント	18
トピックス	24
第三者意見	25
NGP協同組合概要	26

トップコミットメント

自動車リサイクル部品のニーズに応える 社会的責務を果たしていきます

一昨年の世界同時不況を引きずりながら、グローバル化した経済の難しさで、日本は景気悪化と物価下落が同時に進むデフレ状況に直面し景気が回復方向へ転じる前に円高も加速して、私たち中小零細の事業者にとって日本経済の停滞感がいっそう強まった1年でした。

自動車産業も同様で、昨年は登録車販売が292万台あまりと38年ぶりに300万台を割り込み、軽自動車も169万台と低迷したことで合計461万台、年初の予測を大きく下回りました。

日本自動車工業会の予測によりますと、今年の新車販売は約480万台弱と6年ぶりにプラスに転じる見込みですが、伸び悩む家庭収入やCO₂排出削減に伴うライフスタイルの変化で、自動車離れがさらに進まないかと不安の種は尽きません。

こうした厳しい経済状況下で私たちの業界に唯一の光明を見いだすとしたら、自動車リサイクル部品使用によるCO₂排出削減効果の数値化が産構審・中環審合同会議の報告書に盛り込まれ、使用促進が謳われたことです。NGPは昨年3月に業界に先がけてリサイクル部品の納品に、CO₂を削減できる「ドア用のリターナブル梱包材」を開発し、自動車整備事業者の皆様にご理解をいただきながら、エコな商品をさらにエコにする、物流へのチャレンジを開始しました。現在バンパー用やエンジン用梱包材も試作段階に入り、環境配慮への開発は順調に進展しています。

私たち自動車リサイクル業界が資源、並びに環境問題に対して極めて重要な位置付けにある事を認識し、これからも信頼されるNGPであり続けるために、使用済自動車の適正処理はもとより、安心

して使用していただける高品質な自動車リサイクル部品を提供して、お客様満足度をさらに高めていきたいと考えています。

本年はその一環として、インターネットを通じて自動車整備事業者の皆様にお客様をご紹介する仕組み「エコひろば」を開設し、構築に向けた取り組みを推進しています。自動車リサイクル部品で修理を希望するお客様と自動車修理工場の皆様を結び、修理需要を少しでも掘り起こし、皆様とお客様のお役に立ちたいと願っております。

自動車アフターマーケットの市場環境は今後も厳しさを増す一方で、これを乗り越える為にさまざまな努力や工夫を行っていかねばなりません。NGPの商品作りにもお客様の声を反映し、見逃しているニーズに応える商品提供を進めてまいりますので、今後ともNGPの事業活動にご理解を賜りますようお願い申し上げます。



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
理事長 大橋 岳彦

CSRマネジメント

NGPにおけるCSR

社会価値の高いグループを目指して

NGPは2002年、地球環境保全を願って「基本理念」「行動指針」を制定し、組合員が共有すべき価値観・心構えとする活動基準を示しました。これを組合員一人ひとりが日々念頭において活動することが、NGPのCSR活動の根本になっています。使用済み自動車の適正処理を円滑に機能させ、質の高いリサイクル部品を市場に流通する循環型社会構築に向けて社会的使命を果たし続けます。

またNGPは発足以来「お客様への優れた価値の提供」を重視し、お客様を最も優先するナンバーワンのステークホルダーであると位置づけし、グループ全体で「お客様第一」の姿勢を貫くことで事業を成長させてきました。これからも「お客様第一」による持続的成長を遂げることがCSR経営であると考え、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様を提供する価値をさらに高め、社会ニーズを解決する取り組みに積極的にかかわり、地域・社会と共生する企業価値を高めていきます。

CSR活動はステークホルダーとのコミュニケーションが重要と考えます

NGPの事業活動は、多くのステークホルダーの皆様（利害関係を有する方々）との協力で進められています。私たちの理念の実践とCSRを果たすためには、それぞれのステークホルダーの皆様への責任を明らかにするとともに、日頃よりさまざまな方法で皆様のご意見・ご要望をお聞きして、経営目標に反映させます。

●主なステークホルダーとNGPの責任

<p>お客様</p>  <p>お客様はお車に関連する個人・法人の多岐にわたります</p> <p>主な責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ●お客様満足の向上 ●安心・安全な製品とサービスの提供 ●お客様への適切な対応とサポート ●製品情報の適切な提供 ●個人情報の適正管理 	<p>従業員</p>  <p>組合員企業の従業員総数は約3,000人、CSR推進の中心的人材です</p> <p>主な責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人権の尊重 ●人材育成と活用 ●構成評価・処遇 ●職場での安全衛生と健康管理 ●個人情報の保護
<p>組合員(会員)</p>  <p>組合員総数は約150社</p> <p>主な責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ●企業価値の維持・増大 ●適時・適切な情報開示 ●社会的責任への対応 	<p>地域社会</p>  <p>それぞれの地域の環境・文化・歴史・慣習を尊重する活動</p> <p>主な責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の文化・慣習の尊重 ●環境への配慮 ●地域社会への貢献活動 ●事業所での事故・災害防止
<p>取引先</p>  <p>継続的に取引している調達取引先は多岐にわたります</p> <p>主な責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公正な取引 ●調達取引の公平な選定 ●オープンな取引機会 	<p>政府・自治体</p>  <p>国・市町村役所・出先機関・関連団体など多岐にわたります</p> <p>主な責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ●法令の遵守 ●税金の納付 ●社会問題の改善・解決のための政策への協力

基本理念

これからも環境リサイクル時代の社会貢献活動に取り組みます

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合の前身であるNGPグループは1985年(昭和60年)に結成され、2004年には国内唯一の経済産業大臣認可の事業協同組合として組織を法人化したしました。

環境問題や資源問題に対する意識が全世界規模で高まる昨今、国内でも産業の裾野が広い自動車業界では、特に積極的な対応が求められています。

また2005年からは、自動車リサイクル法が完全施行となり、法令遵守、使用済み自動車の適正処理が義務付けとなりました。

このような時代背景から、NGPグループではこれまで、従来のリサイクル部品共有在庫ネットワークの運営を行うとともに、使用済み自動車適

正処理ネットワークとして全会員参加によるエコ推進運動の展開、損害保険会社・リース会社等の全損車取引マニュアルを作成し、その適正処理を遵守した業務や自動車リサイクル法等の新たな制度説明会などの組織的活動を展開してまいりました。

さらに前述のとおり組織を法人化することで急激に進む環境保全への迅速な対応、専門性を追求する役割に対してNGP協同組合の組合員が果たすべき使命を全うできるような体制が整いました。

NGP協同組合はこれからも、リサイクル部品の規格統一化、技術教育、啓蒙活動など、環境リサイクル時代の社会貢献活動をNGP協同組合組織活動の主課題として全力で取り組んでいきます。

NGPグループ21世紀宣言

- 一、我々は、使用済み車輛を適正に処理します
- 一、我々は、自動車リサイクル部品を全面的に啓蒙します

我々NGPグループは、リサイクル部品流通業界のリーダーとして、一人ひとりが責任を持ち、21世紀の社会に貢献していくことを誓います。2005年施行の自動車リサイクル法に合わせ、地域社会に信頼され、存在価値のあるグループを目指します。

行動指針

- ① 環境保全活動を当グループの最重要課題と位置づけ、グループ全従業員の共通認識とします。
- ② 環境に関する法律、規制、自動車リサイクル法等を遵守し環境保全に取り組みます。
- ③ 環境負荷低減のため、環境目的・環境目標を定め、定期的に見直しを行うことにより、継続的な改善を図ります。
- ④ 工場内における解体作業については、適正かつ効率的なリサイクルが行われるよう解体技術の向上に努めます。また、同時に廃車車輛の全てにマニフェスト発行による管理を徹底します。
- ⑤ 設備の稼働については通常時のみならず、非通常時においても廃棄物の漏残、飛散等の未然防止、及び騒音の削減等の地域環境保全に努めます。
- ⑥ 事業活動全般に関して大気汚染、土壌汚染、水質汚染、悪臭の防止に努めます。
- ⑦ グリーン購入法に基づき、使用物品等を見直し、再生紙などの利用促進をするとともに、電気・水道水等のエネルギー消費の低減に取り組みます。
- ⑧ 定例ブロック会議を通して本方針を全グループ企業に周知させるとともに、グループ全従業員に対して教育し、自覚と意識の向上を図り、広く一般に開示します。

CSRマネジメント

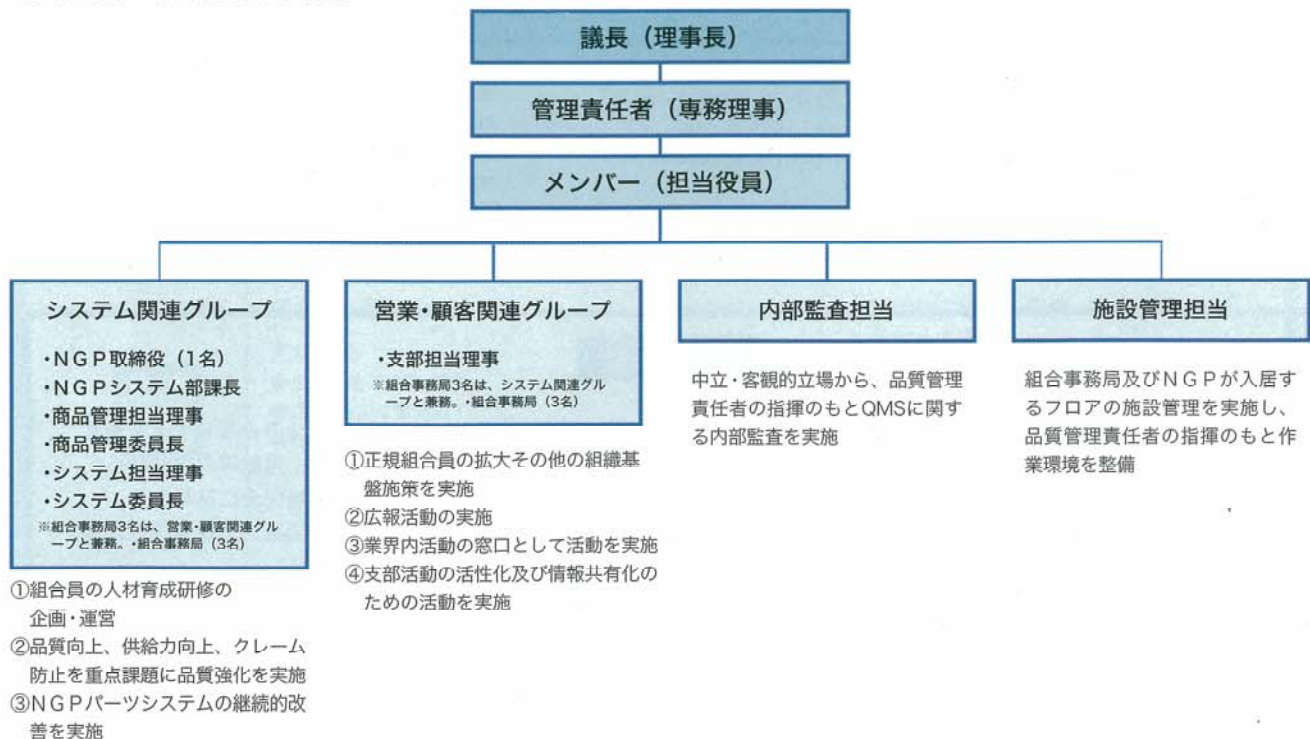
コーポレートガバナンス

NGPは長期的な企業業績の維持・向上とCSR経営の継続的な推進により、企業価値の増大に向けたガバナンスの確立に取り組んでいます。

組合の機動性と指導監督機能を高め NGPの価値向上を目指します

NGPはさまざまなステークホルダーに向け、社会における課題に対応するため、内部統制の仕組みを整備して、健全性・効率性・透明性の高い経営を実践していきます。基本理念・行動指針制定以来、理事長を議長として各部署の把握、担当役員全員がメンバーになり、CSRに関する組合員企業の課題についての方針や対応を毎月定例として検討しています。経営環境の変化に的確に対応し、グループ経営の強化により企業価値を向上することがコーポレートガバナンスの基本であると考えています。

■コーポレート・ガバナンス体制



●CSR経営の活動基本

1. すべての事業活動は、生命・安全・コンプライアンスを最優先します
2. CSR活動
 - (1) 環境マネジメントの推進
 - (2) 品質マネジメントの推進
3. ステークホルダーへの説明責任

■内部統制する組織体制

組合員は職務の執行にあたり、関連法令ならびに組合定款、基本理念、行動指針、品質マネジメント、コンプライアンス規制および個別の組合規則、通達等を遵守するものとし、これを確保するための体制を整備しています。

コンプライアンス／リスクマネジメント

NGPは社会から信頼・共感されるための基盤はコンプライアンスが事業活動の原則であるということから、コンプライアンス意識の向上に努めるとともに、ステークホルダーへの期待に応えるという意味にも捉え、リスク管理体制の強化を進めています。

■コンプライアンスの取組み

NGPは基本理念に基づき、経営トップが率先して一人ひとりが公の立場に立って、法令遵守はもとより社会規範・企業倫理に則って誠実に行動するものとしています。そのため組合員企業の組織風土を継続的に変革するとともに、不正防止、責任体制の確立に取り組んでいます。

■コンプライアンスの具体的基準

組合員が遵守しなければならない具体的基準として、次の22項目を掲げています。さらにコンプライアンス規制では、その他すべての関連法令も遵守対象としています。

■コンプライアンスの具体的基準（22項目）

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 安全管理 | 13. 不当差別の禁止 |
| 2. 環境保護 | 14. セクシャル・ハラスメントの防止 |
| 3. 消費者保護 | 15. 個人情報の保護 |
| 4. 独占禁止法の遵守 | 16. 児童労働、強制労働の防止 |
| 5. インサイダー取引の禁止等 | 17. 利害相反行為の禁止 |
| 6. 不正競争防止法の遵守 | 18. 会社資産の使用禁止 |
| 7. 政治家、官公庁、公務員との公正な関係 | 19. 会社情報等のセキュリティ確保 |
| 8. 情報開示、責任説明 | 20. 適正な輸出管理 |
| 9. 反社会的勢力への対応 | 21. 投機目的取引の禁止 |
| 10. 適正な会計処理 | 22. 危機管理の徹底 |
| 11. 労働時間等の公正申告 | |
| 12. 贈答品等の受領禁止 | |

■コンプライアンスの推進体制

組合員におけるコンプライアンスは、理事会の下部組織として設置された委員会を中心に推進されて

います。コンプライアンスに係る教育・啓蒙活動方針を策定するほか、重点テーマについて、取組状況を把握し、評価しています。

■リスクマネジメント

NGPは事業活動を遂行するうえで、経営に重大な影響を与える危機を予防し、万一危機が発生した場合に対処する仕組みをつくることは重要な経営課題と認識しています。事業構造・環境変化など今後のリスク管理体制を構築し、危機の予防と発生時の被害軽減などを重点に置いて取り組みをしています。

■主なリスク項目

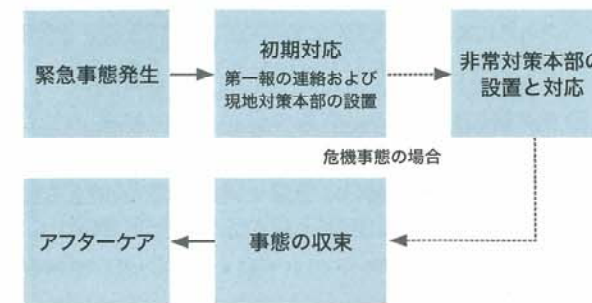
内部要因	環境汚染、労働災害、契約義務違反、生産障害、リコール、苦情トラブルの拡大、人事労働問題、人権問題、機密漏洩、不良債権、情報システム障害、交通事故など
法令違反	独禁法違反、脱税、従業員・役員の犯罪、不祥事、特許侵害など
外的要因	偶発事故、輸送機能トラブル、株の買占め、株主代表訴訟、サイバーテロなど
災害・事変	自然災害、急激な為替・金利の暴騰、運送事変など

■災害の未然防止と緊急時対応

組合員は事業活動において、大量の危険物を取り扱っています。したがって、火災・爆発事故・労働災害といった火災の未然防止を最大の課題と位置付け、設備保全や運転管理、社員の教育研修など、あらゆる機会を通じて徹底を図ることとしています。

さらに台風・地震などの自然災害やテロ対策を含めた万一の緊急事態発生にも備えて、適切な対応を図る体制を整えています。

■連絡通報および防災活動の指揮方法



CSRマネジメント

コンプライアンス／リスクマネジメント

特に事故・災害の発生時の対応は、連絡通報および防災活動の指揮方法を定めており、これに基づき適切な防災措置を直ちに行うとともに、体制が機能することを定期的に確認しています。

災害発生時の対応

万一事業所内で災害が発生した場合は、災害発生事業所などにおいて①災害調査表、②対策および再発防止策実施計画表、③災害原因分析表を作成することとしています。作成後本部に報告され、理事会において検討されます。最終的に本部で共有化し、再発や類似災害の防止を図ることとしています。

情報セキュリティ対策

NGPは個人情報保護法に基づき、お客様や取引先の個人情報を含む情報の保護に努めています。2005年に「プライバシーポリシー」を策定、2007年には本部のコンピュータセキュリティの強化を実施し、セキュリティ対策の確立を目指して、定期的に適切なメンテナンスを実施しています。また組合員全社で個人情報保護の正しい理解の徹底と社内体制の整備・向上を図っています。特に注意すべき項目を「重点項目」として各組合員に通知し、全従業員に注意喚起を促しています。

プライバシーポリシー

個人情報の取り扱いと管理について

規定遵守の呼びかけとともに、きめ細かな指導を行っています

個人情報保護方針

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合（以下「本組合」という。）は、本組合の事業活動を通じて得た個人情報の保護に努めることを社会的責務と認識し、以下の方針に基づき個人情報の保護に努めます。

1. 個人情報の取得について
本組合は、適法かつ公正な手段によって、個人情報（氏名、性別、生年月日、住所、電話番号、FAX、メールアドレス、所属組合、役職、その他の記述により当該本人を識別できるもの）を取得いたします。

2. 個人情報の利用について
本組合は、本組合の事業活動やサービス提供の過程で収集した個人情報を本組合事業活動及びサービス提供とこれに付随する業務を行う目的の範囲内で利用させていただきます。
上記以外の目的で利用する必要がある場合には、あらかじめご本人の承諾を得ることを前提といたします。
また、収集した個人情報の取扱いを外部に委託する場合には、委託先について厳正な調査を行ったうえ、個人情報の漏洩等の事故が発生しないよう適正な監督を行います。

3. 個人情報の第三者提供について
本組合は、下記の場合を除き、個人情報を、事前に本人の同意を得ることなく、第三者に提供いたしません。
(1) 法令に定める場合
(2) 国の機関若しくは地方公共団体又はその委託を受け法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき。

4. 個人情報の管理について
(1) 本組合は、個人情報の正確性を保ち、これを安全に管理いたします。
(2) 本組合は、個人情報の紛失、破壊、改ざん及び漏洩等を防止するため、不正アクセス、コンピュータウィルス等に対する適正な情報セキュリティ対策を講じます。
(3) 本組合は、個人情報を持ち出し、外部へ送信する等によりこれを漏洩させません。

5. 個人情報の開示・訂正・利用停止・消去等について
本組合は、本人が事故の個人情報について、開示・訂

正・利用停止・消去等を求める権利を有していることを認識し、これらの要求がある場合には、誠実に対応いたします。

6. 組織・体制

(1) 本組合は、個人情報保護管理責任者を置くとともに、個人情報を取り扱う部門ごとに部門責任者を置き個人情報の適正な管理を実施いたします。
(2) 本組合は、従業員に対し個人情報の保護及び適正な管理方法についての研修を実施し、日常業務及び退職後における個人情報の適正な取扱いを徹底いたします。

7. 個人情報保護コンプライアンス・プログラムの策定・実施・維持・改善
本組合は、この方針を実行するため、個人情報保護コンプライアンス・プログラム（本方針・個人情報保護規程その他の規程を含む）を策定し、これを本組合従業員その他関係者に周知徹底させて実施し、維持し、継続的に改善いたします。

品質管理マネジメントへの取り組み

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合では、これまで組合員企業を支援するために、NGPパーツシステムや商品化基準の企画運営を実施してまいりました。ISO9001マネジメントは、それらの業務を体系化・文書化することによりマーケットに対して高次元の業務プロセスを押し、ひいては業界標準の高みを目指すものであります。

具体的には組合各支部の活動と緊密に連携しながら、「商品化基準」や「NGPパーツシステム」に対する要望や改善提案などの情報を吸い上げ開示するとともに、ISO事務局では品質管理責任者と関係スタッフにより社内定期会合を毎月開催し規格の継続維持に努めています。各プロセスに対する改善検討案件や、次期「システム開発の見える化」策等により、講じられた解決策を確実にフィードバックすることにより「NGP三大信条」に資するものと確信します。

※NGP三大信条 ①お客様第一②よりよい商品をより正確により早く③補修部品業界のリーダーたること



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
専務理事 宮地康弘

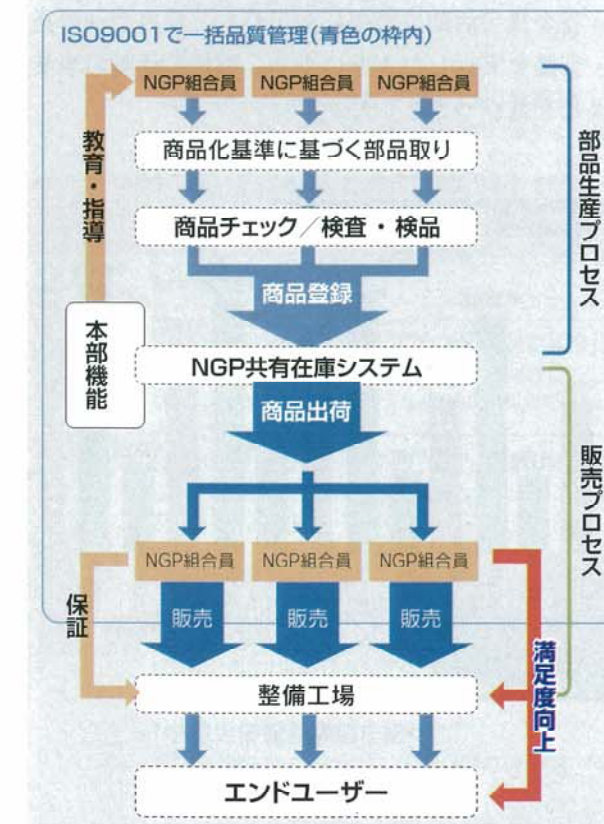
品質管理マネジメント

ISO基準による品質向上の取り組み

自動車リサイクル部品の品質は業界での統一基準がありません。NGPは発足以来、リサイクル部品を安心して利用していただくためにグループ内での品質基準を設け、適正な製品だけを共有在庫として取扱い、市場に供給する努力をしてきました。この結果自動車リサイクル部品としての「NGPブランド」が定着し、さらに世界基準の品質で自動車リサイクル部品を提供することを目指し、2007年にISO9001の認証取得を行いました。本部で運営する共有在庫システムを軸に、組合員の部品生産・登録までの全プロセスを一括してISO9001でマネジメントし品質管理を本部が負うとの方式で認証取得しました。

NGPは自動車リサイクル部品の生産・登録業務を標準化して品質レベルの揃った製品を在庫し、販売面でも統一的な品質保証レベルを示すことで、お客様に製品を安心して購入いただける体制を確立す

構築する品質管理体制のイメージ



ることになりました。ISO9001認証取得は、部品生産登録の一連の流れが国際的な品質規格で管理されていることを意味します。

品質マネジメントの体制

NGPはお客様に満足していただける商品・サービスを提供するため、品質マネジメントを確保する以下の体制を整備しています。

■それぞれの役割

- (1) 理事長の役割
品質マネジメントシステムの構築およびその実施、ならびにその結果が計画通りに達成されるよう改善します。
- (2) 専務理事の役割
専務理事は品質管理責任者に位置づけられ、品質管理責任者は理事長を補佐し、品質マネジメントに関する業務の一切を統括します。
- (3) システム関連グループの役割
「商品化基準」および「NGPパーツシステム」の制作・運用管理を中心に活動し、組合員からの意見を吸い上げ、改善へとつなげていきます。
- (4) 営業・顧客関連グループの役割
各支部の活動と連携しながら「商品化基準」の製作・運用管理に関する組合員からの意見や、ユーザーからの苦情を収集・分析し、改善のための活動を実施します。
- (5) 商品管理責任者
「品質マネジメント」の徹底を図るために各組合員は企業内に商品管理責任者を配置して、製品の生産・検査から保管・登録までの管理と品質向上の業務を実施します。

品質管理に関する基本活動に取り組んでいます
製品安全のための品質確保とお客様への積極的な情報開示を誠実に実施しています

●品質管理に関する基本活動

1. お客様の立場にたった品質の確保をします
2. 関連法令と契約を遵守してお客様の権利を尊重します
3. さらなる品質システムの研究・開発をします
4. 事故発生などの原因追及による本質改善に努力をします

NGPの事業活動

2009年度事業報告

| 当期における事業の概況

当期における我が国経済は、悪夢のようなリーマンショックから2年が経過しましたが、デフレ脱却の兆しも見えない中、いまだに本格的な景気回復に至っておらず株価、円高、雇用とどの指標を見ても閉塞感に陥っています。当然のように、一般消費者の購買意欲は低調のまま企業業績は好転せず、とりわけ中小零細企業の経営は困窮し、厳しい事業環境にさらされています。

このような経済状況の中低迷し続けていた自動車需要は、先行実施したエコカー購入に対する優遇税制に加え、09年6月には経年車の買い替え補助制度(スクラップインセンティブ)が景気、環境対策として実施されました。これにより国内新車販売台数は回復基調となりましたが、9月上旬の補助制度終了後の反動減により自工会では2010年度の全体需要を465万台と32年振りの低水準と予測しています。

また自動車総整備売上は、3年連続で減少し、総売上が5兆4671億円(-5.7%)と下落傾向に歯止めがかかっていません。特に事故整備の-8.4%減が顕著と成っています。

我々の自動車リサイクル部品業界ではタイムリーなスクラップインセンティブの施策が奏功し使用済み自動車の発生台数は大幅に増加となりました。しかしながら当施策も9月上旬には予算終了となり10月以降の入庫減への対応が迫られています。

このような中NGP協同組合の今期実績は、リサイクル部品総売上金額が、400億7348万円と前期比6.6%増加し500億への第一歩の400億に到達いたしました。あらためてNGP協同組合関係各位のご努力に心から感謝を申し上げます。

また使用済み自動車処理台数は784,511台と前期比22.1%の大幅に増加しましたが、リサイクル部品総生産金額は132億2,286万円となり前年実績を2.7%下回る結果となりました。

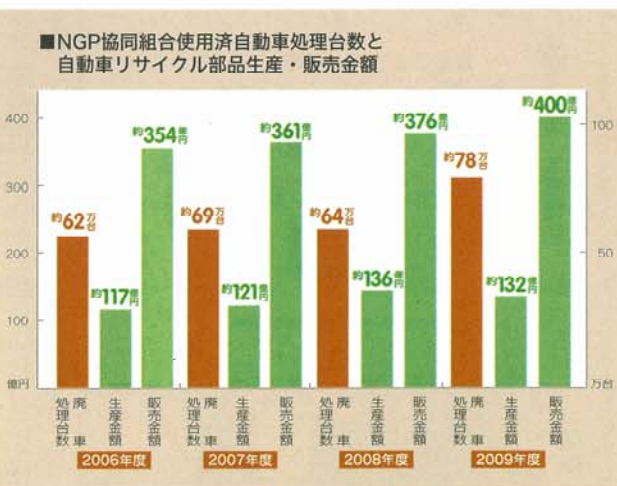
当期の組織テーマは、「Positive Change for 2020 自ら変革のとき さあ次の10年へ」を掲げて活動してまいりました。

主な具体的事業は①Webサイト「NGPエコひろば」の開設 ②「中身も箱もエコ主義!」リターナブル梱包材のバンパー・エンジン用の追加開発 ③エコプロダクツ2009の大規模出展によるリサイクル部品使用CO₂削減効果の啓蒙活動 ④福岡工業大学との画像計測システムの産学協同研究 ⑤全国中小企業団体中央会の補助事業の採択を受け、活路開拓ネットワークの2事業の推進 ⑥産構審、中環審の委嘱を受け業界代表として政界や中央省庁への陳情などの活動とともに、理事会と委員会との連携を図りつつ事業推進をいたしました。

| 組織の状況に関する事項

今期は新執行部体制をスタートし前期に引き続き、執行部と支部理事の合議性を高め、支部各組合員の意見を活発に吸収し、組織意思決定を明確にし、NGP組織の活性化に反映することを目的とし組織運営を図りました。

また各支部理事が、委員会を管掌・担当することで、各委員会活動に密接にかかわり、委員会への指導・支援を実行したことにより、委員会活動の事業成果にも結びつきました。



| 2009年度活動概要

2009年
9月

「第22回経営者研修会」実施

9月15～18日(4日間) 東京新木場・BumB東京スポーツ会館にて次期オーナーを対象とした研修会。

10月

「第19回基礎研修会」実施

10月3～6日(4日間) 東京新木場・BumB東京スポーツ文化館にて全国の新入社員を対象とした研修会。

「第5回NGP協同組合通常総会」開催

10月26日 東京品川・品川プリンスホテルにて通常総会を開催。その後、来賓・組合員350名参加で懇親会を実施。



「コンピューター画像検査システム」テスト運用開始

10月26日通常総会にて発表・福岡工業大学との共同開発によるもので、外装部品を3D処理し、コンピューターで解析する画像検査システムのテスト運用開始。

「3R月間キャンペーン」自動車リサイクルの啓蒙活動

10月29日 東京品川駅前前で自動車リサイクル部品の利用促進を呼びかけるパンフレットの配布を実施。

11月

リターナブル梱包材が「グリーン購入大賞・優秀賞」を受賞

11月6日 北海道札幌・札幌プリンスホテル・リターナブル梱包材取組みが評価され受賞されました。主催/グリーン購入ネットワーク

「第5回ハイブリッドカーセミナー」を実施

11月10～11日(2日間) 静岡県裾野市・あいおい保険自動車研究所東富士センター
参加者には「低圧電気取扱特別講習修了証」を取得。

「第4回生産STEP UP研修会」を実施

11月11～13日(3日間) 静岡県裾野市・あいおい保険自動車研究所東富士センター

12月

日本最大の環境展「エコプロダクツ2009」出展

12月10～12日(3日間) 東京ビッグサイト・来場者18万人。CO₂排出削減役立つ自動車リサイクル部品の利用促進を呼びかける。

2010年
1月

「バンパー用リターナブル」のテスト運用開始

「中身も箱もEco主義」というキャッチコピーで取組み始めたリターナブル梱包材、運用中のドア用に続く。

2月

「第5回フロントマンSTEP UP研修会」実施

2月15～16日(2日間) 静岡県裾野市・あいおい保険自動車研究所東富士センター



「中国大使館参事官を招く」

2月23日理事会に合わせて、中国大使館文参事官、NPO法人世界中田理事長を招き勉強会を開催。

3月

「クレーム報告の電子化」で情報収集

お客様から寄せられる不具合情報を開発中の新システム受注時の操作画面等に反映する。

「第19回中級研修会」実施

3月15～19日(5日間) 静岡県裾野市・あいおい保険自動車研究所東富士センター

「第9回国際オートアフターマーケットEXPO2010」に出展

3月18～20日(3日間) 東京ビッグサイト・リターナブル梱包材などをPR。

4月

「第6回・7回ハイブリッドカーセミナー」実施

4月5～7日(3日間) 静岡県裾野市・あいおい保険自動車研究所東富士センター

「提携リビルトメーカー合同交歓会」開催

4月16日東京品川「ゆうぼうと」にて提携リビルトメーカー12社との意見交換会

「第20回基礎研修会」実施

4月22～25日(4日間) 東京新木場・BumB東京スポーツ文化館にて全国の新入社員を対象とした研修会。



5月

「第8回ハイブリッドカーセミナー」実施

5月24～25日(2日間) 静岡県裾野市・あいおい保険自動車研究所東富士センター

「第5回生産STEP UP研修会」実施

5月25～27日(2日間) 静岡県裾野市・あいおい保険自動車研究所東富士センター

6月

「第19回初級営業マン研修会」実施

6月6～8日(3日間) 東京新木場・BumB東京スポーツ文化館にて営業マンとしての心構えと基本マナーの研修会。

「第9回ハイブリッドカーセミナー」実施

6月17～18日(2日間) 静岡県裾野市・あいおい保険自動車研究所東富士センター



「ISO9001更新審査」実施

6月22日 NGP本部にて品質マネジメントの国際規格ISO9001認証資格を更新。

「韓国リビルト事業者の調査団来日」

6月23日 自動車部品研究院、韓国再生資源循環産業産業協会の関係者らとNGP本部にて勉強会を開催。

「第1回初級生産管理者・初級フロントマン研修会」実施

6月24～26日(3日間) 東京・晴海グランドホテル・商品規格、品質規格の基礎知識を学ぶ研修。

NGPの事業活動

使用済み自動車の適正処理

自動車リサイクルを推進して循環型社会構築を目指します

全国で年間約400万台の車両が廃車になっています。これを一台1トンの廃棄物で計算すると400万トンで、国内の年間廃棄物量約7,000万トンのおよそ6%になり、廃車はリサイクルされないと、とりわけ大量な廃棄物として大きな社会問題になります。以前に自動車の不法投棄・不適正処理が社会問題化したこともあり、それを防止してフロン類・エアバッグ類の処理や、資源を回収する目的で法制化されたのが「自動車リサイクル法」(2005年施行)です。この法律により自動車の所有者・引取事業者・メー

カー・輸入業者の各々が廃車の適正処理と管理に責任を持つことになり、近年使用済み自動車の回収率は90%を超え、使用済み自動車を適正処理する私たち自動車リサイクル事業者の役割はますます重要になりました。自動車のリサイクルは最初に燃料(ガソリンなど)、エンジンオイルなどの油類、ラジエターの冷却水(LLC)、カーエアコンの冷媒ガスを抜き取り、エアバッグのガス処理後、解体され再生可能部品を取り外し、残った本体部分はプレスし塊にしてシュレッダーにかけます。自動車は鉄・アルミなどの有用な金属が車両の約70%を占め、車両総重量の約95%は資源として再利用しています。

廃車の買取り「廃車王・くるマック」

廃車とリサイクル部品の専門店 地域で身近な「くるマック店」

NGPは使用済み自動車をユーザーから直接買取りする「くるマック店」を全国150拠点で営業展開しています。家庭・企業で不要になった使用済み自動車の買取り・引取りから廃車手続き・解体処理までの業務を「お客様第一」の一貫したサービス体制で対応して2009年度は全国で約1万台以上の廃車を引取りました。使用済み自動車の引取りに際してはリサイクル事業の社会的・環境的な業務をユーザーに理解していただくことと、自動車リサイクル法・廃車の適正処理などの説明をすることが重要になりました。使用済み自動車は多様な車両(事故車・走行不良車・水没車・低年式車)を有用な資源として

回収し、一部は良質な自動車リサイクル部品に再生され補修市場に供給されています。NGPは「くるマック店」を廃車引取りの全国窓口として、また良質なリサイクル部品の生産に欠かせない仕組みとして業務拡大への取組みを進めています。さらに「くるマック店」は自動車リサイクル部品の利用相談、部品探し(NGP全国部品在庫情報ネットワークの検索)、部品販売、修理工場の紹介などのサービスを提供し、地域に共生する利便性の高い店舗を目指して自動車リサイクル部品の啓蒙・販売促進の期待に応えていきます。



「くるマック」のご案内

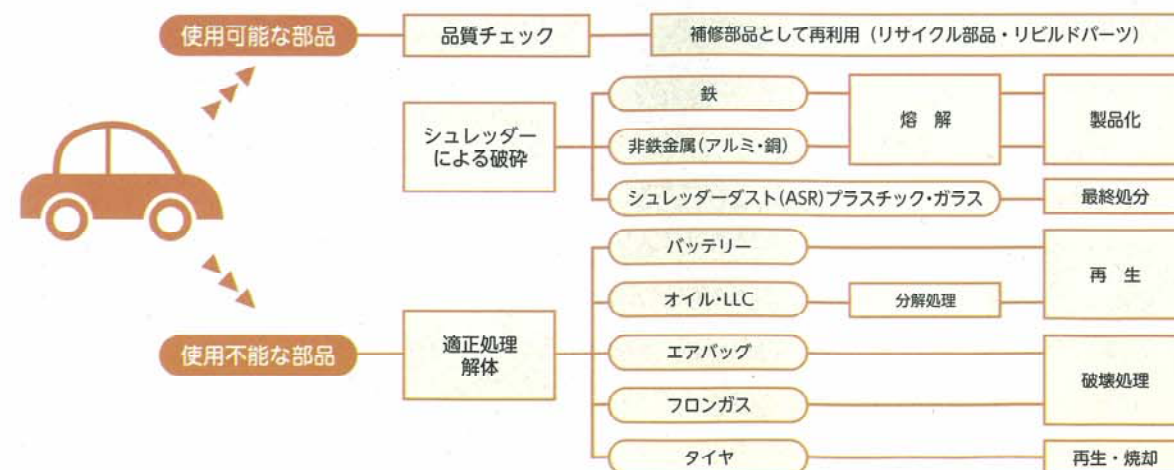
不要なクルマの安心買取り
リサイクル部品の販売
(在庫150万点から検索サービス)



ラジオCMでおなじみの(全国放送中!)

- 廃車無料見積** 使用済み自動車の買取り価格・リサイクル費用などの提示
- 廃車引取り** こちらからお引取りに伺います(廃車手続き書類作成)
- 適正処理・再資源化** 組合員工場での適正処理と生産(検査・登録・販売)

使用済み自動車リサイクルフロー



自動車リサイクル法

自動車リサイクル法は、使用済みの車両の積極的なリサイクル、適正処理を行うために、車両の所有者や自動車メーカーなどの役割を定めた法律で、2005年1月1日に施行されました。

それぞれの役割は?

クルマの所有者

リサイクル料金を支払い、使用済み自動車を引取事業者へ引き渡す

引取事業者

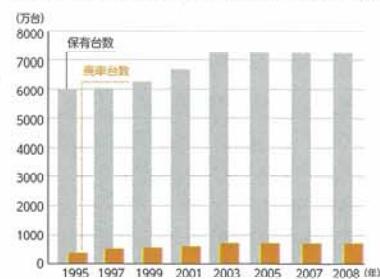
所有者からクルマを引き取り、フロン類回収業者、解体事業者に引き渡す

- フロン類回収事業者 ●解体事業者
 - 破碎事業者
- 各事業者は、適正に回収・処理する

自動車メーカー・輸入業者

自社製品のフロン類、エアバッグ類、ASRを引き取り、リサイクルする

●国内での保有台数と推定廃車台数の推移



リサイクル法の対象となる3品目

フロンガス

カーエアコンの冷媒として使われているフロン類は大気に放出すると、オゾン層の破壊や地球温暖化の要因になるため、適正な処理(破壊)をする必要があります。また、回収処理する事が自動車リサイクル法では義務づけられています。

エアバッグ

エアバッグ類はガス発生剤を使用しており爆発性があるため、使用済み自動車のリサイクルを適正かつ確実に行うため、解体業者は使用済み自動車を引き取ったときは、「エアバッグ類」を適正に処理する必要があります。また、回収、及び破壊処理する事が自動車リサイクル法では義務づけられています。

シュレッダーダスト

車は、鉄、アルミ等の金属が多く使われているため総重量の80%がリサイクルされますが、残り20%は解体、破碎後に発生するゴミとなります。このゴミは、自動車メーカー等が指定する最終処分場にて適正に処理・再利用されています。

それ以外の廃棄物の回収

廃オイル・LLC

土壌汚染・水質汚濁の原因である廃オイル・LLC等は丁寧に回収しなければなりません。また、浄化槽設備を充実させ、工場敷地外への流出防止に努め、土壌汚染・水質汚濁の影響調査を実施するように指導しています。回収後は、適正引取業者に処理委託をおこない、引取業者証明書によってその状況を把握しています。

使用済み自動車

事故による全損車両やリースアップ車両を積載車両にて引取りします。引取・処理には自動車リサイクル法の引取業者、フロン類回収業者、解体業者、破碎業者の登録・許可が必要です。当組合では、使用済み車両適正処理を実施する全国ネットワークとして、電子マネーフェスト(移動報告)による管理を徹底しています。

NGPの事業活動

自動車リサイクル部品の生産

高度なりサイクル技術によって
良品の生産率をアップします

良質なりサイクル部品を安価にお届けするために、NGPはたゆみない努力と探究心で部品生産を展開しています。自動車業界はハイブリッドカーの普及、電気自動車の登場など大きな変化を遂げつつあります。自動車の進歩から自動車部品も複数の素材が複雑な構造の中に使用され、部品の取扱い、異物の除去、資源の区分けなどリサイクル率を左右する専門性の高い技術が必要になっています。そのためNGPはリサイクル技術向上に役立つ部品情報の「共有情報の電子化」を本年スタートさせ、自動車

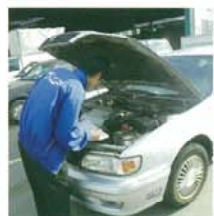
リサイクル部品の生産に必要な部品情報を、NGP組員ネットワークシステム（NGPシステム）に蓄積し、個別車種・個別部品の取扱いにも対応する情報を全組員に開示することになりました。これにより部品クレームも一元管理され、製品の安全性・信頼性を大きく高めることとなります。またこのシステムは組員企業の熟練技術者の暗黙知やノウハウを吸収し、データベースに蓄積してNGP全体のリサイクル技術のレベルアップが図れると考えています。さらにNGPは安全で効率的な部品回収に向け、メーカー・業界の協力を得て、組員向け生産研修会・ハイブリッドカーセミナーを毎年定期的実施し、さらなる技術革新を図っています。

NGP自動車リサイクル部品生産工程



1 引取

NGP組員は、全社がリサイクル法の許可を取得した企業です。安心してお任せください。速やかに車両を引取いたします。



2 入庫・検査

入庫された車両はすべてコンピュータに入力されます。このコンピュータネットワークが全国をオンラインで結んでいる「NGPシステム」です。すべての情報はこのNGPシステムに登録されます。



3 生産

フロン(R12・R134)、各オイル、LLC等を適正に回収した後、1点でも多く使用可能な部品を取り外します。その後スチーム洗浄して検査します。1台から平均23点の部品がリサイクルされます。特に近年はレアメタルなどの稀少金属の回収と有効活用が注視されています。国にとっての課題である稀少金属のリサイクルは国内循環の一翼を担う大きな役割になります。



4 美化・品質チェック

取り外した部品は1点1点厳正な検査を行います。NGPの商品化基準に合った物のみが商品として生産され、また機能部品は作動チェック・テスター機器等を使用して、より高度な品質を生産しています。これらすべての部品には、信頼の証である「NGPギャランティー・シール」が貼付されます。



5 登録・在庫管理

基準検査に合格した商品が倉庫の棚に納められます。NGPシステムには、チェックした商品の状態を細部まで登録し、いつでもスピーディに出荷できるように管理・保管されています。



6 受注・梱包・発送

ご注文時にはNGPシステムを使用して、全国約150万点の在庫をリアルタイムで即座に検索。国産車・輸入車を問わず、あらゆる部品に対応します。丁寧に梱包されたリサイクル部品はご注文の翌日には納品されます。
(一部、発送により翌日お届けできない場合があります)

自動車リサイクル部品の販売

「もっと多くのユーザーに」
利用促進活動を継続していきます

自動車リサイクル部品は、社会的意義から自動車リサイクル法施行以後も大きく注目され、また「グリーン購入法^{*}」の対象製品として行政の後押しにも支えられ市場での影響力も高まりました。リサイクル部品の低価格性から修理費用をなるべく安く抑えたいというユーザーニーズの広がりもあって、リサイクル部品を積極的に活用する自動車修理工場も増加しました。また自動車メーカーも補修部品として自らリサイクル部品の積極的利用を拡大しています。しかしながら日本国内での自動車リサイクル部品市場は現在約1960億円（リユース部品1090億円・リビルト部品870億円/2008年）規模にとどまっています。リサイクル部品の普及は海外と比較してもいまだ低水準で欧米の利用率30~40%に対して、日本はわずか5%程度と言われ、まだまだ活用されていないのが現状です。車と環境問題ではすでに法整備、企業の努力も進展し、循環型社会実現も急がれ、

NGPは以前にも増して自動車リサイクル部品の信頼と、ユーザーの積極活用を図るための「お客様満足度」をさらに高め、環境配慮型カーライフを提案する啓蒙PRを進めなければなりません。

^{*}「グリーン購入法」環境にやさしい製品を選定して、国の調達に関しては、その製品を優先的に選択し、地方自治体は努力義務、事業者・国民にも一般的な責務があると定めた法律（2001年4月施行）



リサイクル部品活用推進店

一般ユーザーとの窓口になる全国1万4千社の優良修理工場に「リサイクル部品活用推進店証」を発行して自動車リサイクル部品の啓蒙と利用と推進に努めています。



徹底した品質管理「ギャランティー・シール」

安心の品質とお求めやすい価格。自動車リサイクル部品はユーザーにとって大きな魅力を持っています。NGPリサイクル部品には、「ギャランティー・シール」が貼付されていますが、これはNGP基準検査を通過した製品の信頼の証明です。従来の中古部品のイメージを一新しました。

主な自動車リサイクル部品(リユース部品)のCO2削減量

外装内装部品



フロントバンパーAssy	27.3kg
フロントウィンドシールドガラス	29.7kg
右ヘッドライト/ランプ	7.2kg
右フロントフェンダーパネル	8.0kg
右フロントドアAssy	98.7kg
トランクリッド	35.5kg

エンジン部品



エンジンAss	331.5kg
ターボチャージャー	19.6kg
パワステポンプ	11.7kg
ラジエター	41.7kg
スターターモーター/セルモーター	8.5kg
オルタネーター/ダイナモ	12.0kg
マフラーAssy/マフラーキット	46.5kg

電装部品



クーラーコンプレッサー	31.4kg
バッテリー	38.2kg

駆動系



オートマチックトランスミッション(AT)	304.8kg
ステアリングラック&ピニオン	17.7kg
右フロントドライブシャフト	19.0kg
右フロントナックルAssy	56.8kg
右フロントストラットAssy	78.6kg

CO2削減量とは……車を修理する際、新品部品で修理する場合とリサイクル部品で修理する場合のCO2排出量の差を数値化したものです。
※上記CO2削減量は日本自動車リサイクル部品団体協議会グリーンポイントクラブと早稲田大学環境総合研究センターの産学共同研究による数値です。
(Ver.1007) 国産車(1999年式、1500cc・4ドアセダンタイプの場合)の数値を参考にしています。

ステークホルダーとともに

皆様とのコミュニケーションを大切にします

 お客様への責任

■ お客様第一の安心品質

自動車部品にはお客様の安全が託され、万全な品質を保証する責任があります。NGPは発足以来、お客様を最優先する「お客様第一主義」に徹することで、安心な商品を提供してきました。これからもお客様満足度を高めるために、お客様の視点に立ち、より良い商品を提供し続けることが使命であると考えます。

- お客様への責任
- お客様満足への活動基本

1. 安全で信頼される製品とサービスをご提供します
2. お客様からのご要望、ご相談には誠実・迅速・的確に対応します
3. お客様の声からお客様にご満足いただける製品・サービスの開発、改善に努力します
4. お客様の個人情報を保護します

■ お客様の声の反映

NGPは日常の業務や電話・メールなどの情報を通じて寄せられた商品・サービスに関するご相談・ご意見・ご要望に迅速・丁寧な対応を心がけています。お客様の声はNGPへの期待であり、貴重なご指摘として認識し、真摯なコミュニケーションを図り、現場にフィードバックして、品質改善・販売対応でお客様の満足度を高めるために役立てています。特にお客様のクレームは本部の指導事項であり、原因究明の調査を着実に実行し、重要なものは本部で協議して業務改善の指導による再発防止に取り組んでいます。NGPはお客様の満足度を高めるため、得られたお客様のご意見を業務に十分反映するとともに、製品やサービスの信頼につながる改善につなげていきたいと考えています。

VOICE

さらなる信頼性の向上に向けて



商品管理委員長
上田 秀徳
有限会社プロス代表取締役

全く同じ品質のものが存在しない中古部品という宿命に立ち向かい「NGPブランド」の確立に向けて限りなくこだわり続けます。「ありのままの状態を正確な情報としてお客様に伝えることのできる商品」これが「品質管理されたNGPブランドの商品」なのです。それは全国どこかの拠点から発送されても確実に同じ基準でなければならないのです。基準から外れた商品や違反行為が発覚すればただちに現地に立入り調査のうえ厳重注意や改善指導を実施します。また昨年7月より現場でのクレーム起因・不具合情報や互換性情報等を収集し全組合員の共有情報として一元管理するシステムを稼働しました。これにより取扱いの注意喚起し手厚いクレーム防止策となり積極的なサービス向上とNGPブランドのさらなる信頼性向上に繋がると考えます。機能部品に関しては「点検から診断へ」「使える商品」から「まだまだ使える商品」への変革を考えています。そのために測定器や診断機の検証・普及に現在取り組んでいます。またドアなどの外装部品の傷やへこみなどの画像解析システムの確立に向けて、福岡工業大学と共同で取り組んでいます。細かな傷(ミリメートル単位で解析する)などの情報も画像で提供することで中古部品の信頼性を高め、お客様満足度100%につなげていきたいと考えています。

事業所のCO₂削減活動



環境委員長
藤原 庸正
株式会社福山セコ代表取締役

環境委員会は全国の事業所における環境リスクを限りなくゼロに近づける「省エネルギー推進活動」を進めています。全国のエネルギー利用調査もいよいよ3年目に入り、ようやく前年対比などの集計資料も揃い検討が始まりました。今後もCO₂削減・廃棄物の削減に向け、組合員一人ひとりが身近な日常活動として捉え、NGP全体のエネルギー管理の徹底などが求められます。その活動の基礎となる目標作りに専念しています。また本年の「エコプロダクツ2010環境展」への出展も環境委員会のプロジェクトメンバーを中心として、自動車リサイクルの適正処理・リサイクル部品の利用啓蒙をユーザーにわかりやすく楽しく説明する展示に努力して、会場でも高い評価のあるNGPブースを例年以上に盛り上げていきたいと思います。環境委員会は皆様のご協力でも環境保全活動に取り組んでまいります。

 従業員とともに

■ 明るくやりがいのある職場

NGPは従業員が持てる力を十分に発揮できる職場を目指し、透明で公正な評価制度を整え、従業員の意欲を尊重した人事制度を適用しています。年齢・性別・身体的特徴・国籍の違いなどを「多様性」として認め、また性別や雇用形態などに関わりなく、存分に実力発揮できる環境づくりを進めます。

●人事の基本指針

1. 適材適所・人材育成を旨とした人事配置、ローテーションの実施をします
2. 透明・公正かつ実力主義による評価、処遇の実現をします
3. 企業実力に見合った労働条件の設定と社会要請に対する迅速な制度的対応をします
4. 能力開発のための教育機会の積極的提供をします

 調達取引先とともに

■ 公正で透明性の高い購買体制

NGPは取引先とのパートナーシップに基づく公正・公平な購買取引を推進し、取引先と相互利益関係の実現を目指しています。また調度品については周辺環境への配慮や環境マネジメント体制を評価して、環境配慮製品の購入を優先しています。

●取引基本指針

1. 透明性 オープンで透明性のある取引をします
2. 公正 お取引先の選定は公正な評価に基づきます
3. 法令遵守 関連法規を遵守し、かつ法令の条項とその精神も尊重し、業務を遂行します
4. 環境保全 積極的に「グリーン購入」を進めます
5. 相互信頼 お取引先との対等なパートナーシップに基づく取引を通じ、信頼関係を築きます
6. 倫理 厳正な倫理観に基づくお取引と適切な関係を維持します

 地域社会への責任

■ 地域との調和を大切にします

NGPはよき企業市民として法令を遵守して、行政や地域の方々との対話に努め、地域社会との調和を保つよう配慮しています。事業活動・環境保全などについて情報を開示して地域の方々の適切なコミュニケーションに努めていきます。

地域の小学校から「環境学習の一環」として、組合員工場に社会科見学の希望があります。組合員は施設見学に対応して「自動車のリサイクルと自動車リサイクル部品」のご説明をしています。



写真は鹿児島市御幸町オートパーツ伊地知
2009年2月

●社会貢献活動基本

1. 安全な地域社会づくりのためのグループ・組合員参加型の社会貢献活動を推進します
2. 組合員のボランティア活動支援をします
3. 社会貢献活動において、NPO・NGO等と協力体制を整えます

「NGPグリーン活動大賞」スタート

NGPは環境貢献活動の一環として、表彰制度「NGPグリーン活動大賞」を制定し、組合員または組合支部を対象に、環境に配慮した施策および地域貢献活動などを募集して表彰することになりました。大賞の選考は第三者（組合員以外）を含む環境委員会を選考し、NGP全国通常総会で表彰します。新たな表彰制度で地域社会の信頼と組合員の環境意識向上に役立てていきたいと考えています。

交通遺児育英会より感謝状

NGPは1991年より、自動車リサイクル部品の売上げの一部を交通遺児の奨学金に利用していただく寄付金として、財団法人交通遺児育英会に贈呈してきました。昨年10月26日の全国通常総会後の懇親会にて財団法人交通遺児育英会から感謝状をいただきました。今後も社会貢献のための支援を続けたいと思っています。



環境マネジメント

NGPの事業活動におけるCO₂削減

環境経営に関する方針

NGPにとって環境マネジメントは事業の本質に関わる重要課題のひとつと認識しています。常にお客様の満足と安心を優先した業務を行い、持続的循環社会構築に向け事業活動のあらゆる場面において環境保全の意識を高め、以下の基本方針に取り組んでいきます。

- ①法令遵守 ●環境法規制およびその他の要求事項を遵守します
- ②省エネルギー・省資源 ●事業活動で消費するエネルギー・水等の使用量を削減し、省エネルギーを推進します●生産活動で使用する梱包材等の省資源・効率化へ推進します●事業活動で使用する紙等消耗品の使用量を削減します
- ③環境負荷・汚染の低減 ●事業活動で発生する廃棄物のリサイクルを推進します●事務用品のグリーン購入を推進します

④地域との共生 ●環境保全活動に積極的参加して地域社会への貢献と調和に努めます

環境関連規制を順守する管理の徹底に努めています。環境マネジメントの適切な運用を確認するため省エネルギー推進活動報告による内部監査を定期的実施しています。

事業活動における投入資源・排出環境負荷

NGPは使用する資源・エネルギーの投入量 (INPUT) と排出量 (OUTPUT) を定量的に収集・分析することで、総合的で効率的な環境負荷低減に活用しています。NGPはエネルギー消費が電力に大きな割合を占めることから、電力使用量の削減に重点をおいて取り組みを進めています。また内部監査より「省エネルギー活動に是正処置が必要である」「記録の記入に不備がある」「環境マネジメントの理解に誤解がある」などの不備があれば、それぞれ適切に改善を行います。

省エネルギー推進活動

NGPは2007年度から毎月のエネルギー使用量の報告を組合員に義務付け、省エネ活動に取り組んでいます。組合員の努力成果により、本年度のエネルギー使用量は各事業所で着実に改善されてきました。

特に電力を除くエネルギー使用量に関しては前年比の10%の削減を達成し、CO₂の抑制にも大きく貢献できました。今後の効率化については電力の抑制とエネルギー効率の良い設備機器等の順次導入を視野に入れた指導をしていきたいと考えています。

2009年NGP組合員事業所エネルギー消費量

支部	電力(kwh)	水(m)	LPG(kg)	都市ガス(m)	ガソリン(kℓ)	灯油(kℓ)	軽油(kℓ)	重油(kℓ)
北海道	4,399,963	7,021	563	29	28	99	287	3
東北	3,966,092	15,683	13,595	8,356	89	108	829	0
北関東	4,984,468	23,380	8,517	1,464	53	25	852	87
南関東	748,404	8,873	2,909	2,546	58	12	237	0
北陸	805,747	4,543	731	0	8	28	503	14
東海	965,085	8,276	3,252	50	68	14	475	23
関西	768,661	6,525	4,396	205	41	10	484	34
中四国	1,927,436	15,096	9,279	26	60	35	1,049	111
九州	1,059,842	6,628	3,033	202	28	6	407	44
合計	19,625,698	96,023	46,274	12,878	434	337	5,123	316
CO ₂ 排出量(kg)	10,892,262	34,568	139,147	26,785	1,006,488	838,783	13,422,776	857,040
CO ₂ 排出量合計	27,218t (昨年度合計 CO ₂ 排出量 28,600t)							
削減排出量	▲ 1,388t (約5%減少)							

ISO14001認証取得を推進

ISO14001認証取得会社一覧

取得会社名	登録日	取得会社名	登録日	取得会社名	登録日
株社商会	2003年 1月24日	株マルトシ青木	2003年 1月20日	ウエイパーツ	2003年 8月29日
株アシスト・フクダ	2003年 1月15日	太田部品株	2003年 1月29日	株山陰エコ・リサイクル	2005年 2月10日
株マテックELV石狩	2001年 6月 5日	株オートパーツ片岡	2004年12月24日	株みうら	2003年 2月28日
株エルパ北海道	2005年 3月29日	株大橋商店	2003年 1月27日	株國興商店	2004年 1月 9日
株路オートリサイクル株	2006年12月27日	株安全自工	2003年 3月28日	株西川商会	2004年10月22日
株むつパーツ	2004年12月17日	株メタルリサイクル株千葉パーツセンター	2008年 9月18日	株根オートリサイクルセンター	2006年 8月 8日
株福島リパーツ	2004年12月24日	株ツクダ自動車	2004年12月17日	株オートリサイクルナカシマ	2004年 9月24日
株永田プロダクツ	2004年 1月14日	株ハセ川自動車	2003年 1月21日	株パーツライン	2003年 1月26日
株ナプロフクシマ	2003年 3月18日	株津田鋼業株	2003年 1月23日	株オートパーツ伊地知	2001年 6月13日
株エコブリッジ	2004年12月20日	株山一商店	2003年 1月22日	株グッパ福岡	2003年 3月12日
株アイエス総合	2004年10月25日	株堀川自動車商会	2003年10月22日	株ユービー宮崎	2003年 3月28日
株青南商事盛岡支店アルトレック矢巾	2002年 2月27日	株メタルオート北陸	2005年 3月24日	株アル・トーヨー	2004年11月25日
株青南商事 弘前支店 アルトレック青森	2002年 2月27日	株オートパーツまるも	2005年 4月12日	株オートパルス ニホウ	2004年12月 9日
株青南商事 酒田支店 アルトレック酒田	2002年 2月27日	株カンザキ	2003年 3月20日	株エイ・ティ・エム	2003年 3月18日
株青南商事 八戸支店 アルトレック八戸	2002年 2月27日	株多田自動車商会	2003年 3月18日	株W.A.R.C.西日本オートリサイクル株	2003年 1月30日
株青南商事 仙台支店 アルトレック塩竈	2002年 2月27日	株ラ・テール	2003年 3月28日	株オートリサイクルナカシマ福岡	2004年 9月24日
株栃木パーツ	2004年 6月 7日	株堀尾自動車部品	2003年 2月25日	株クバ商会	2004年11月25日
株共伸商会	2003年12月11日	株草山パーツ	2003年 4月25日		
株黒崎部品	2003年 1月21日	株桜井	2003年 4月25日		
株茨城オートパーツセンター	2003年 2月21日	株多田自動車商会大阪営業所	2003年 3月18日		
株田崎商店	2003年12月 3日	株福山セコ	2010年 5月 7日		
株拓殖商会	2003年12月15日	株クレスタパーツ (株中村解体)	2003年 2月26日		
株しのぶや	2003年 2月28日	株山陰UP販売	2007年 8月23日		
株ユーパーツ	2002年 7月26日	株桃太郎部品	2003年 2月20日		
株C.R.S.埼玉	2004年 8月 4日	株オートパーツ幸城	2003年 3月23日		
株C.R.S.埼玉	2002年 7月10日	株オートパーツ新居浜	2003年 2月27日		
株C.R.S.埼玉	2005年 5月27日	株岡崎車輛部品株	2003年 2月28日		
株C.R.S.埼玉	2008年 9月18日	株東和	2003年 7月23日		
株C.R.S.埼玉	2003年12月11日	株エコテック(株)	2004年 1月28日		
株しのぶやみどり工房	2003年 2月28日	株エビス	2003年 9月12日		

- メイト会員
 - 丸利伊丹車輛株北広島支店 2004年 6月21日
 - オレンジパーツ平成株 2004年12月20日
 - 株アンドーカーパーツ 2006年 3月14日
 - 株商會 2003年 1月24日
- システム賛助会員
 - 株オートパーツ三伸 2006年 3月24日
 - 株石上車輛株恵庭店 2004年 5月19日

取得会社社数(含登録拠点) 83拠点

環境エコバランスデータ(2009年度)

2009年9月~2010年8月

IN PUT

資源・エネルギー投入量

- 原材料(使用済自動車) 78万台(前年比122%)
- 電力 19,691,788kw (前年比108%)
- 重油 316kℓ(85%)
- ガソリン 456kℓ(95%)
- 軽油 5,825kℓ(84%)
- LPG 54,130kℓ(85%)
- 灯油 399kℓ(84%)
- 水 96,283m³(前年比108%)

※09年1月~12月消費量

OUT PUT

環境負荷物質排出量

- 販売部品点数 232万点(前年比109%)
- CO₂削減量 8,258万kg(前年比95%)
- フロンガス 20万kg(前年比120%)
- 廃オイル 420万ℓ(123%)
- L L C 267万ℓ(111%)
- 廃タイヤ 294万本(121%)
- 廃バッテリー 819万kg(113%)
- 使用済自動車 78万台(122%)

※09年9月~10年8月実績

※CO₂削減量の数値はリサイクル部品のみを対象としています。

NGP
全国142社
201拠点

使用済自動車
の適正処理
リサイクル部品
の生産

環境マネジメント

NGPの事業活動におけるCO₂削減

エココンポ（オートパーツ） 「グリーン購入大賞」優秀賞受賞

2009年11月6日に札幌プリンスホテルにて開催された2009年度グリーン購入全国フォーラムin北海道（主催/グリーン購入ネットワーク・後援/環境省・経済産業省・WWFジャパン・日本経済団体連合会・日刊工業新聞社・毎日新聞社・読売新聞社）で「NGPのリターナブル梱包材の取組み」が第11回グリーン購入大賞優秀賞を受賞しました。



表彰式の写真左からミスさっぽろ・大橋岳彦NGP理事長・中原秀樹審査委員長・GPN会長

※「グリーン購入大賞」グリーン購入ネットワーク（GPN）が、グリーン購入に関する先進事例を表彰し広く紹介することで、全国の各種団体にグリーン購入の取組みを普及させることを目的として1998年に創設された表彰制度で本年は第11回となります。

取組み概要

中身も箱もECO主義！自動車中古部品はエコ商品。物流もエコにしたい！梱包材料（段ボール箱）を使い捨てからリターナブルへ

使用済み自動車から商品化したリサイクル部品の梱包資材を、使い捨てからリターナブル梱包材に変更しました。リターナブル材は繰り返し使用が可能であり、仮に200回使用すれば、素材生成時および輸送時のCO₂排出量は段ボールと比較して一回あたり74%の削減ができます。



バンパー用リターナブル梱包材の開発を進めています

リターナブル梱包材は、ドア・フェンダー用に続いてバンパー用の開発を進めています。試作を終えたバンパー用については作業性・輸送時の商品ダメージの有無など、テストのうえ運用を開始します。

現時点では軽自動車用バンパーの作業効率が非常に高いことが確認されています。リターナブル梱包材の取組みは昨年3月より開始、すでにドア用梱包材の運用が始まっています。CO₂削減成果として、ドア用梱包材を配送に200回利用することで、一回の配送に関わるCO₂排出は段ボール使用時の約4分の1に削減できました。バンパー梱包材は専用梱包材が軽量であるため、同様の試算を適用するとCO₂排出は10分の1に削減できると見込まれます。

環境リスクマネジメント

組員企業の事業内容・立地条件から想定される環境リスク（環境事故・環境汚染・法令違反など）について未然防止とリスクの最小化に取組んでいます。特に「排水・排出ガス」「油類・化学物質の漏えい」「土壌・地下水汚染」「騒音・近隣からの苦情」には適正に対応して①異常を発生させない②万一発生した場合は、被害の最小化と確実な対処、情報開示を方針として日常点検、監視管理などの実施しています。

商品・サービスを通じて環境意識の向上を啓蒙しています

NGPは使用済み自動車の適正処理への理解と、リサイクル部品を広く利用していただくための広報活動に努め「環境にやさしいリサイクル部品」をテーマに啓蒙ツールを作成し、提携企業・団体と協力して、日常の活動、イベント・キャンペーンにて啓蒙運動を実施しています。さらに例年参加している国内最大級の環境展「エコプロダクツ（12月・東京ビ

ックサイト）」「自動車補修部品展 国際オートアフターマーケット（3月・東京ビックサイト）」に出展し、ユーザーへの環境意識向上を図っています。詳しくは組合のHPでもご案内しています。



リサイクル部品利用によるCO₂削減効果の公表について

環境問題からリサイクル部品によるCO₂削減効果を早稲田大学環境総合研究センターとJAPRA（日本自動車リサイクル部品販売団体協議会）の共同研究で07年6月より公表することにしました。データはJAPRAシステムとNGPシステムの販売点数からCO₂削減の数値を毎月計測して発表します。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合販売分より/2009年度分

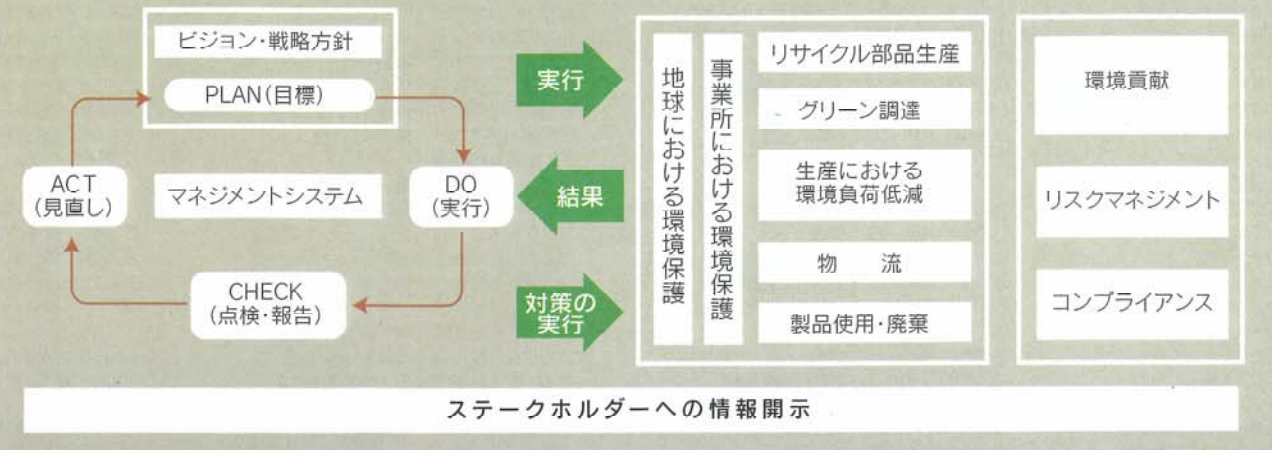
	2009年9月	10月	11月	12月	2010年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
販売点数	158,899	174,991	163,227	162,052	178,288	170,098	182,013	175,119	170,169	187,115	192,355	182,817	2,097,943
CO ₂ 削減値(kg-)	7,270,098	8,014,000	7,473,449	7,452,641	6,404,025	6,550,420	6,720,907	6,631,401	6,148,264	6,582,396	6,796,692	6,544,482	82,588,775

※販売点数はリサイクル部品のみを対象としています。

リサイクル部品の環境負荷削減効果評価システム

- 目的**
 現在、地球温暖化防止問題は国際的課題であり、わが国でも「京都議定書」に基づくCO₂排出削減目標が決定されているが、その達成が困難視されている。またCO₂排出削減目標も大手企業の課題として受け取られており、中小企業は範疇外となっているのが現状。
 自動車リサイクル部品の流通に携わる業態は中小零細企業が多いが、今回の産学協同研究の結果、リサイクル部品の流通そのものがCO₂排出削減に寄与することが数値的に明確になったことから、業界団体である日本自動車リサイクル部品販売団体協議会は、加盟団体9グループ（部友会・システムオートパーツ・自動車補修部品研究会・日本パーツ協会・トータルカーリサイクルグループ・シーライオンズクラブ・ジャパンエコネット会・テクルスネットワーク・リビルド工業会全国連合会）及び有力会員であるNGP事業協同組合と協力して販売データを集約し「CO₂排出削減量」を公表、国が目指すCO₂削減活動の一助とすることにした。
- 実施概要**
 ①早稲田大学環境総合研究センターは、日本自動車リサイクル部品販売団体協議会（以下リサイクル部品協議会という）の協力を得て、自動車リサイクル部品の環境負荷削減効果に関するデータベースの蓄積と個々部品の効果ポイント数値の精度を上げる。毎年継続した研究テーマとする。
 ②リサイクル部品協議会は、JAPRAシステム及びNGPシステム上の
- 今後の展開**
 ①早稲田大学環境総合研究センターとリサイクル部品協議会は、継続してリサイクル部品に関する環境負荷削減の共同研究を続ける。
 ②早稲田大学環境総合研究センターとリサイクル部品協議会は、日本国内での「CO₂排出権取引」開始を想定、業界としての参画の検討及び「リサイクル部品のCO₂排出削減寄与」の位置付けを検討する。
 ③早稲田大学環境総合研究センターとリサイクル部品協議会は、「リサイクル部品の環境負荷削減効果評価システム」の国際的な普及・啓蒙を促す活動を進める。

NGP協同組合の環境マネジメントの概念



環境マネジメント

使用済自動車の処理・リサイクル部品の生産販売

廃車の適正処理 大幅アップ 780,000台

2009年度の使用済み自動車の処理台数は、昨年よりのスクラップインセンティブ*の影響もあり前年比約2割増となり、廃棄物回収処理量も大幅に増加しました。NGPは自動車リサイクル法に定める適正処理を厳守して以下(下表)の実績を達成しました。今後も継続的なレベルアップを進め、社会的責任を担っていきます。

※「スクラップインセンティブ」(廃車補助金制度) 国が環境対策・不況対策として、消費者の所有する古い自動車の廃車を促し、新車に買い替えるための動機付けをおこなう各種優遇策。(平成21年4月10日から平成22年9月30日までに新車を購入し同時に車齢13年を超えた車を廃車にすると補助金を支給 2009年4月施行)



●使用済自動車処理台数と 廃棄物回収実績の推移 (2007年～2009年)



■安定した品質の供給に向けて

リサイクル部品の生産は廃車処理台数の大幅な増加にもかかわらず、本年度の特徴としての低年式車両の入庫が多かったことにより「NGP商品化基準」に達する部品が少なかったことが、前年比約4%減の一因になったとも思われます。一方販売面では補修市場でのリサイクル部品の商品力が見直され、需要も若干拡大し今後のリサイクル部品普及・認知に期待ができる約9%増加の成果になりました。今後も品質基準の強化と品数・在庫量を整備し、ユーザーの供給に役立てていきたいと考えます。



●リサイクル部品の生産・販売実績の推移 (2007年～2009年)



2009年度使用済自動車処理台数・廃棄物回収処理実績 (2009年9月～2010年8月)

支 部	使用済自動車処理台数(台)					フロンガス回収処理(kg)					廃オイル回収処理(ℓ)					LLC回収処理(ℓ)					エアバック展開・回収処理(個)					廃タイヤ処理(本)					廃バッテリー処理(kg)				
	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%					
北海道	23,495	27,559	51,054	44,424	114.9	7,400	7,076	14,476	12,135	119.3	108,088	120,175	228,263	213,143	107.1	73,710	81,150	154,861	140,682	110.1	24,772	35,414	60,186	44,495	135.3	197,848	250,368	448,216	297,301	150.8	499,738	300,972	800,710	522,830	153.1
東北	54,797	64,972	119,769	93,072	128.7	13,640	12,430	26,070	17,760	146.8	289,207	391,183	680,390	542,737	125.4	195,974	205,230	401,204	280,466	143.0	44,758	75,605	120,363	71,341	168.7	181,264	190,104	371,368	380,390	97.6	478,600	541,090	1,019,690	828,516	123.1
北関東	68,624	78,004	146,628	122,374	119.8	21,746	22,433	44,179	39,383	112.2	360,998	443,482	804,480	705,068	114.1	260,946	320,150	581,103	482,977	120.3	98,608	111,746	210,354	129,881	162.0	225,872	256,898	482,770	399,079	121.0	745,212	1,017,568	1,762,780	1,222,576	144.2
南関東	41,605	43,668	85,273	71,416	119.4	11,829	13,573	25,402	20,493	124.0	145,556	196,067	342,223	330,310	103.6	89,251	91,000	180,257	191,479	94.1	51,930	64,846	116,776	89,454	130.5	145,044	155,238	300,282	248,557	120.8	375,065	399,153	774,218	688,189	112.5
北陸	24,212	27,433	51,645	50,219	102.8	5,614	5,879	11,493	10,614	108.3	148,110	151,830	299,940	359,740	83.4	57,730	55,990	113,720	120,390	94.5	26,388	35,694	62,082	49,950	124.3	73,770	108,279	182,049	152,409	119.4	211,870	228,867	440,737	416,699	105.8
東海	34,042	39,499	73,541	65,076	113.0	6,237	8,447	14,684	14,613	100.5	150,855	200,506	351,361	344,539	102.0	84,525	101,530	186,059	202,845	91.7	39,022	56,043	95,065	65,310	145.6	113,887	130,057	243,944	223,676	109.1	422,551	458,098	880,649	863,969	101.9
関西	27,490	30,323	57,813	48,756	118.6	7,654	8,048	15,702	14,187	110.7	95,710	114,600	210,310	191,200	110.0	35,400	40,020	75,425	75,631	99.7	29,308	36,057	65,365	43,683	149.6	86,928	98,774	185,702	140,341	132.3	251,808	256,049	507,857	528,257	96.1
中四国	56,300	67,538	123,838	93,611	132.3	15,320	17,200	32,520	27,007	120.4	411,941	497,949	909,890	729,284	124.8	126,592	155,540	282,134	285,145	98.9	64,430	85,430	149,860	93,245	160.7	234,838	262,482	497,320	430,857	115.4	709,772	614,159	1,323,931	1,076,825	122.9
九州	32,468	42,482	74,950	53,458	140.2	8,695	11,199	19,894	14,201	140.1	169,646	201,962	371,608	285,007	130.4	49,615	50,850	100,468	91,878	109.3	33,670	45,158	78,828	55,948	140.9	104,412	124,307	228,719	157,991	144.8	328,599	351,924	680,523	513,426	132.5
合計	363,033	421,478	784,511	642,406	122.1	98135	106285	204420	170,393	120.0	1,880,111	2,318,354	4,198,465	3,701,028	113.4	973,743	1,101,482	2,075,231	1,871,493	110.9	412,886	545,993	958,879	643,307	149.1	1,363,863	1,576,507	2,940,370	2,430,601	121.0	4,023,215	4,167,880	8,191,095	6,661,287	123.0

※(上期) 2009年9月～2010年2月 / (下期) 2010年3月～8月

2009年度リサイクル部品生産・販売実績 (2009年9月～2010年8月)

支 部	リサイクル部品 生産点数(点)					リサイクル部品 生産金額(千円)					リサイクル部品 販売点数(点)					リサイクル部品販売金額(千円)				
	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%	上期	下期	合計	前年	前年比%
北海道	139,582	146,381	285,963	293,471	97.4	788,999	849,023	1,638,022	1,645,876	99.5	163,150	171,761	334,911	289,584	115.7	2,187,579	2,387,970	4,575,557	4,042,330	113.2
東北	117,408	120,919	238,327	253,673	94.0	670,225	717,530	1,387,755	1,488,752	93.2	88,829	92,867	181,696	176,916	102.7	1,671,383	1,828,090	3,499,473	3,253,859	107.5
北関東	85,103	108,992	194,095	237,382	81.8	838,201	901,924	1,740,124	1,901,316	91.5	216,659	230,078	446,737	405,762	110.1	3,283,562	3,586,860	6,870,431	6,733,989	102.0
南関東	81,208	78,271	159,479	168,825	94.5	533,982	560,702	1,094,684	1,165,858	93.9	153,562	169,453	323,015	306,999	105.2	2,749,341	3,052,700	5,802,044	5,601,479	103.6
北陸	83,258	89,572	172,830	177,249	97.5	687,822	787,705	1,475,527	1,478,774	99.8	73,166	71,799	144,965	141,551	102.4	1,390,462	1,458,860	2,849,331	2,640,679	107.9
東海	105,291	112,050	217,341	211,860	102.6	919,297	1,004,391	1,923,688	1,857,549	103.6	154,726	181,270	335,996	282,843	118.8	2,613,103	3,006,570	5,619,677	5,029,301	111.7
関西	60,470	63,401	123,871	123,031	100.7	472,143	506,287	978,429	990,706	98.8	60,962	66,778	127,740	122,309	104.4	1,261,710	1,382,540	2,644,252	2,498,274	105.8
中四国	139,564	155,980	295,544	280,490	105.4	910,907	1,000,849	1,911,756	1,856,381	103.0	105,122	113,570	218,692	205,804	106.3	2,140,808	2,367,300	4,508,113	4,257,458	105.9
九州	90,934	92,415	183,349	203,914	89.9	536,898	535,978	1,072,876	1,202,933	89.2	99,372	110,579	209,951	198,857	105.6	1,765,343	1,939,250	3,704,597	3,549,764	104.4
合計	902,818	967,981	1,870,799	1,949,895	95.9	6358474	6864389	13,222,863	13,588,144	97.3	1,115,548	1,208,155	2,323,703	2,130,625	109.1	19,063,291	21,010,140	40,073,433	37,607,133	106.6

※(上期) 2009年9月～2010年2月 / (下期) 2010年3月～8月

品質・環境など 会社の意識が変わりました

NGP組合員になって、ISO取得から始まり品質・環境マネジメントなどについて学びました。CSRについての従業員の意識は確実に高まりました。現場でのマスク・ヘルメット着用など労働安全面も改善しました。



㈱アール・トーヨー 専務取締役 高木 崇司

NGPブランドに誇りを

リサイクル部品には高い信頼性が求められるため、ほんの小さな欠陥も見逃さず、高品質部品を供給することに心血を注いでいます。NGPブランドを支えていることに誇りを感じています。



㈱ハセ川自動車 代表取締役 当波 忠弘

「国内最大の環境展 エコプロダクツ2009」に出展

自動車リサイクル部品の活用を呼びかけています



「自動車リサイクル部品で環境保全」のテーマで本年は4回目の出展になりました



紙芝居で「自動車リサイクル」をわかりやすく説明



「自動車リサイクルクイズ」には大勢の方に参加いただきました

NGPは「エコプロダクツ2009」に出展し、自動車リサイクルと修理時のCO₂排出削減につながる自動車リサイクル部品のPRに努めました。06年以降4回連続の出展になります。

昨年同様リサイクル部品で7色に仕上げた日産「マーチ」のリムジンを展示するとともに「リサイクル博士」が登場して、子供たちにもわかりやすい紙芝居を使い、自動車リサイクル部品を説明しました。さらに「リターナブル梱包材」も展示し、NGP協同組合がCO₂排出削減につながるリサイクル部品をさらにエコにする事業に取り組んでいることを紹介しました。昨年までクイズの解答用紙を用意していましたが、今年は環境に配慮してビニールでパウチングして、マーカーで書き込み、解答用紙を繰り返し使えるように工夫し

たことで、来場者から感心されました。リサイクル部品がCO₂削減につながることを理解していただくために「リサイクル部品を使った時の削減効果が大きいものは何か?」との設問をクイズで行いました。正解は「エンジン」ですが、ブースには「くるくるリサイクル盤」の模型を置き、遊びながらクイズの解答とリサイクル部品の効果を理解できるように展示しました。実際の「くるくるリサイクル盤」はペーパークラフトで、修理工場のフロントに配置できるようになっています。リサイクル部品のCO₂削減数値を知ってもらうことは将来のエコユーザーを育てることになります。NGP協同組合は今後も引き続きエコプロダクツに出展して、リサイクル部品の啓蒙・普及に努めていきます。

エコな整備修理を希望するカーユーザーへ
地域の優良自動車整備修理工場をご案内するwebサイト

「NGPエコひろば」がスタート

カーユーザー向けの「エコひろば」宣言

自動車リサイクル部品を利用する修理を提供することで、エネルギー抑制や地球環境保全の循環型社会構築に貢献します。

使用済み自動車から、まだまだ再利用可能な部品を取り外し、厳正な品質チェックを行います。リサイクル部品の再利用により、廃棄物削減をします。

大切な車を長く乗りたい、車の修理・メンテナンスを低価格で実現できる。お客様にも「地球にやさしい心」の輪を広げます。



安達 宏之 氏
有限会社 洛思社
環境法・ISO・CSR部門
チーフディレクター

ご略歴

2002年より洛思社に在職し、CSRや環境法、ISOコンサルティング事業の統括管理者として企業のCSR体制整備に尽力。CEAR登録環境マネジメントシステム (ISO14001) 審査員。著書に「Q&A実務に役立つ環境法」(第一法規) など。

昨今の続発する異常気象に直面し、地球温暖化を一刻も早く防止しなければならないという危機感が、社会共通の認識となりつつあります。しかし一方で、厳しい経済状況もあり、そのための対策については残念ながら社会的な合意には至ろうとしていません。そうした中で、NGPが自動車リサイクルの分野で真摯にこの問題を正面から受け止めて活動する姿に、私は大きな期待を抱いています。

今年のCSRレポートでは、製品の梱包材をリターナブルなものに切り替える活動をスタートさせたことを紹介しています。NGPでは、既に自動車リサイクル部品を使用することによるCO₂削減効果を数値化しており、自動車リサイクルの持つ重要な一面を社会へ効果的に提示していますが、「エコな商品」だけでなく「エコな商品をさらにエコにする」点にも着目して新たな目的・目標を増やしていることは高く評価されます。整備事業者と顧客を結ぶWebサイト「エコひろば」の開設や画像計測システムに関する大学との協同研究のスタートなども、現状に甘んじることなく前に突き進む姿勢がよく出ていると思います。

今後は、これらCSR活動をさらに推進していくことはもちろんのこと、同時に活動の基盤となるマネジメントシステムにも注視し、その改善に取り組み続けることも忘れぬようにしてほしいと思います。自動車リサイクル事業を発展させて温暖化防止にも貢献する循環型社会を形成していくためには、顧客満足度を向上させて「顧客に選ばれるNGP」でなくてはならず、高品質な製品を維持するための体制をスパイラルアップさせるべきだからです。

この点を組合本部にヒアリングしたところ、ISO9001活動の枠組みの中で、顧客クレームの削減に取り組み続けるとともに、その活動を組合内で「見える化」する取り組みを強化していました。企業のCSR活動は長期に及べば及ぶほど活動が形式化するリスクが増大しますので、今後もこの点を留意すべきでしょう。

これからも初心を忘れずに事業を発展させ、環境経営を推進することを期待しています。



青山信一 氏
日刊自動車新聞社編集局論説委員・
社団法人自動車技術会フェロー

ご略歴

中央大学文学部卒業、1982年4月日刊自動車新聞社入社。運輸省(現国土交通省)記者クラブを皮切りに運輸関連、部品・用品流通、部品生産分野、自動車メーカーなど自動車産業全般を幅広く取材。1994年編集委員、東北支社長、カードック編集長、日刊自動車新聞総合デスクなどを経て2006年論説委員(現職)

本CSRレポートは、国内の自動車リサイクル部品業界が、地球環境貢献に努力しているかを示すデータを網羅しており、日本を代表するリサイクル部品販売事業者組織が継続発行していることに重要な意味がある。さらに昨年度版からは「環境エコバランスデータ」を加えて、NGPの組合員それぞれのCO₂排出削減努力の積み上げも本レポートから見えるようになった。

日ごろの取材活動を通じて接している「NGP日本自動車リサイクル事業協同組合」は、国内のリサイクル部品業界のリーダー的存在として「リターナブル梱包材」等、常にいくつかの新規事業にチャレンジしている。同時に組織全体の環境マネジメントや法令遵守に常に気を配っているとの印象を持つ。

こうした努力の積み重ねは必ず数値に反映されることになり、ますます本レポートの価値を高めることになるはずだ。

そして欲を言えば、NGPの組織がリサイクル部品業界、あるいは自動車解体業界全体の中でどのような位置づけであるかを俯瞰できるデータが盛り込まれると、ありがたい。NGPの組合員は解体業の平均より大手事業者であり、環境意識の上でも先行している。NGPの平均的な組合員像と自動車解体業の平均を比較したもので良いのだが、大手事業者がこうした努力をしているのだと明確に示すことが、業界の指標にもなり、業界全体の底上げにつながるはずだ。

最後にリサイクル部品については「全面的に啓蒙」するだけでなく、「普及・利用の促進する努力」に関しても「NGPグループ21世紀宣言」の文言に明示すべきではないだろうか。またレアメタル、レアアースをめぐる昨今の情勢を考慮し、国内資源循環への貢献を新たな項目に加えることは、NGPが「21世紀型自動車リサイクル産業」のリーダーへと飛躍するために必要不可欠な政策になると考える。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合概要

組織概要

組織名 NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
(所管 経済産業省)

本部 〒108-0074 東京都港区高輪3-25-33
長田ビル

創立 1985年4月

理事長 大橋岳彦

組合員数 142組合員、201拠点

主な事業内容 健全な自動車リサイクル事業の構築を目指し、全国組合員企業の経営意識向上、意識改革までの「企業の社会的責任」を遂行し、補修部品の消費者への啓蒙と販売

株式会社NGP

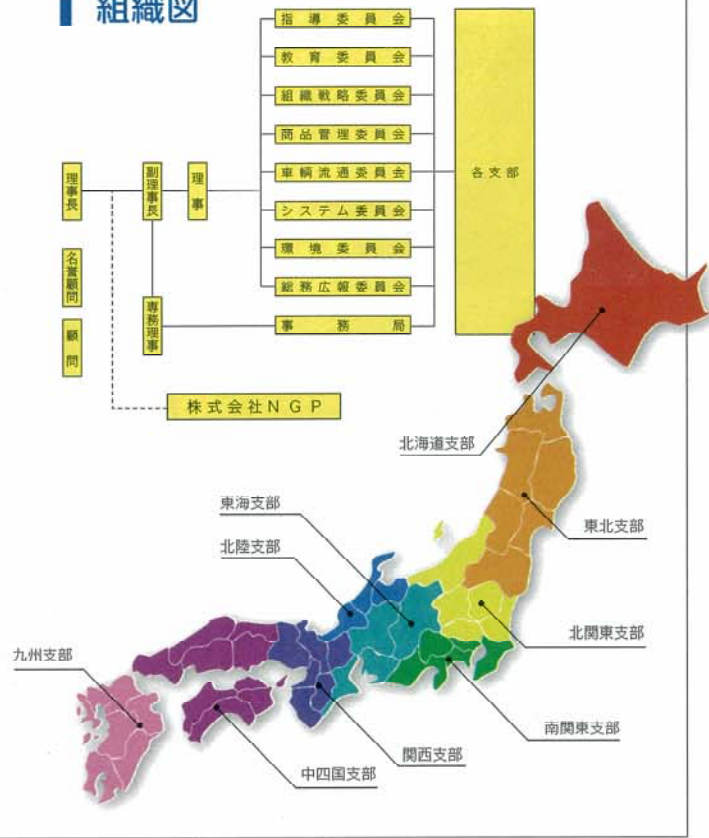
NGP協同組合の関連会社で、2003年9月にNGP協同組合本部と同一事務所(品川)に本社を移転し、組合と一体体制のもと、NGP協同組合支援を中心に事業活動を展開しています。

その事業内容は、NGPシステムの運営管理、損害保険会社及びリース会社等の使用済自動車引取業務、ISO14001のコンサルティング等で幅広く会員企業の経営拡大をサポートしています。

また新たな自動車リサイクル時代に向けて、新システム活用の「NGPダイレクト」や「事故車画像見積システム」を開発するなど、グループ戦略を推進しています。

- 創立/1990年11月 ●資本金/4,000万円
- 代表取締役/大橋岳彦

組織図



組合員名簿 (2010年10月現在)

コード	会社名	郵便番号	住所	電話番号
北海道				
101	株式会社	079-8431	旭川市永山町11丁目30番地2	0166-47-2771
102	備まるふく八田商会	098-0333	上川郡剣淵町元町1番地2号	0165-34-2457
103	株式会社	041-0824	函館市西栢町818-17	0138-48-2000
104	ビープロス	067-0022	江別市江別403-1	011-380-2633
105	株式会社大東開発	059-1365	苫小牧市字植苗166-3	0144-51-8008
106	株式会社	061-1270	北広島市人曲804番地37	011-377-5577
107	株式会社	079-1101	赤平市共和町220番地58	0125-34-4100
108	株式会社	082-0004	河西郡芽室町東芽室北1線6番25	0155-62-6833
109	株式会社	085-0063	釧路市文苑3丁目49番8号	0154-38-4471
111	株式会社	061-3244	石狩市新港南1丁目22番地16	0133-60-4828
112	株式会社	080-2463	帯広市西23条北4丁目1-27	0155-38-8011
113	株式会社	084-0925	釧路市新野24-1084	0154-57-3718
114	株式会社	099-0878	北見市東相内町664番地2	0157-66-5775
115	株式会社	098-6642	稚内市声間1丁目11-4	0162-26-8151
101-01	R/パーツモイ	078-3165	留萌市藤山町16	0164-43-5330
青森県				
201	株式会社	039-1563	三戸郡五戸町大字沢16番地の2	0178-62-5471
204	株式会社	035-0043	むつ市南赤川町10-18	0175-22-1021
215	株式会社	031-0071	八戸市沼館1丁目15-12	0178-73-1117
217-01	株式会社	038-1304	青森市浪岡大字高屋敷字社元14-1	0172-69-1199
217-02	株式会社	039-2246	八戸市栢野工業団地2丁目10-36	0178-28-8727
秋田県				
207	株式会社	015-0011	血判本荘市石脇字尾花沢57	0104-22-5740
219	株式会社	017-0204	鹿角郡小坂町荒谷字手紙沢54番地63	0186-29-3990
岩手県				
211	株式会社	028-1361	下閉伊郡山田町藤立15-21-1	0193-81-1155
217	株式会社	028-3602	紫波郡矢野町大字藤沢10地割字大下田183-3	019-698-3399
山形県				
206	株式会社	990-0875	酒田市東町1丁目24番地16号	0234-22-0307
206-01	株式会社	990-0001	山形市穂積9番地1	023-626-1288
217-02	株式会社	998-0005	酒田市大字宮海字南浜1-101	0234-35-0120
宮城県				
202	株式会社	989-6135	大崎市古川藤波二丁目2番11号	0229-23-3071

コード	会社名	郵便番号	住所	電話番号
203	株式会社	981-1241	名取市高遠郡野芝字飛鳥9番地の17	022-390-2461
216	株式会社	987-0511	登米市迫町佐沼字敷田56-1	0220-21-5153
217-04	株式会社	985-0011	塩竈市貞山通り1丁目45の20	022-361-6669
福島県				
205	株式会社	963-0102	郡山市安積町笹川字北72	024-946-1180
209	株式会社	969-0104	西白河郡泉崎村太田川上礼堂55-1	0248-27-1736
210	株式会社	963-0725	郡山市田村町金屋字マセコ48	024-944-1280
212	株式会社	969-6207	大沼郡会津美里町宮里80	0242-55-1055
213	株式会社	979-1525	双葉郡浪江町大字高瀬字小高瀬189-2	0240-35-0100
214	株式会社	960-0241	福島市笹字中ノ畑45	024-555-5131
218	株式会社	970-1147	いわき市好間町大和字井田木140	0246-47-1521
220	株式会社	963-0724	郡山市田村町上行合字北古川17-1	024-944-4100
茨城県				
305	株式会社	319-0106	小美玉市笠置634	0299-48-1398
306	株式会社	307-0013	結城市大字中134	0296-32-1893
310-05	株式会社	310-0035	水戸市東原2-1-35 小林ビル2階	029-226-4261
栃木県				
302	株式会社	327-0821	佐野市高萩町399	0283-23-3266
308	株式会社	329-3215	那須郡那須町大字寺子乙2890	0287-72-0450
309	株式会社	321-0971	宇都宮市海通町179	028-662-2287
308-01	株式会社	329-3215	那須郡那須町大字寺子乙2567-24	0287-74-3077
310-03	株式会社	321-0942	宇都宮市南2丁目4番5号 サンスタイト1階	028-649-5967
群馬県				
307	株式会社	370-0105	伊勢崎市境伊与3097番地1	0270-76-3683
311	株式会社	371-0852	前橋市総社町総社2913番地	027-251-6365
310-04	株式会社	371-0847	前橋市大友町3-9-2 第2神栄ビル3F	0272-55-5651
新潟県				
301	株式会社	959-3106	村上市切田1042-2	0254-62-2178
303	株式会社	950-3307	新潟市北区樋ノ入1389-3	025-396-1655
304	株式会社	950-1122	新潟市西区木場1634番地1	025-377-2410
316	株式会社	956-0112	新潟市秋葉区新保3513番地	0250-61-0501
303-01	株式会社	950-3102	新潟市北区見島町3268-10	025-255-3055
埼玉県				
310	株式会社	360-0023	熊谷市佐谷田1285-2	048-524-0610

コード	会社名	郵便番号	住所	電話番号
312	株式会社	346-0028	久喜市河原井町17	0480-26-3559
314	株式会社	350-0833	川越市芳野台2-8-36	049-228-5111
315	株式会社	350-0166	比企郡川島町戸守440番地	049-299-2733
310-01	株式会社	331-0812	さいたま市北区宮原町3-167 桜井ビル1階	048-652-0505
310-02	株式会社	360-0023	熊谷市佐谷田1202-1 2F	048-528-7641
東京都				
405	株式会社	190-1201	西多摩郡瑞穂町二本木753番地の3	042-556-2735
411	株式会社	182-0001	調布市緑ヶ丘1-37-3	03-3300-0685
412	株式会社	133-0002	江戸川区谷河内2-8-15	03-3677-3331
421	株式会社	144-0051	大田区西蒲田6-36-11 西蒲田NSビル8F	03-3736-0431
310-06	株式会社	192-0907	八王子市長沼町206-3 ブルーパルビル1F	0426-37-5580
310-08	株式会社	123-0851	足立区梅田7-24-12 有賀サンハイツ2F	03-5045-1371
310-09	株式会社	177-0041	練馬区石神井町2-13-17 龍英ビル2F	03-3904-1890
千葉県				
406	株式会社	289-2101	匝瑳市香海74-1	0479-73-0830
407	株式会社	285-0066	佐倉市上別所118-1	043-498-2461
414	株式会社	263-0001	千葉市稲毛区長沼原町429-1	043-257-9449
416	株式会社	274-0053	船橋市豊喜町640番地5	047-457-5750
417	株式会社	290-0047	市原市岩崎911-1	0436-24-4182
310-07	株式会社	260-0018	千葉市中央区院内2-12-1 金子ビル1F	043-223-6423
315-01	株式会社	277-0924	柏市風早1-9-4	04-7190-0980
神奈川県				
404	株式会社	214-0031	川崎市多摩区東生田4-6-3	044-976-1487
409	株式会社	235-0021	横浜市磯子区岡村5-21-15	045-761-0551
410	株式会社	243-0034	厚木市船子247-1	046-220-1441
413	株式会社	246-0002	横浜市瀬谷区北町26-9	045-921-4479
418	株式会社	224-0034	横浜市都筑区勝田町1030-1	045-595-3035
419	株式会社	256-0815	小田原市小八幡4-10-10	0465-46-1082
420	株式会社	254-0075	平塚市中原3丁目3番33号	0463-32-6862
401-01	株式会社	250-0863	小田原市飯坂500-1 255ビル2F	0465-47-7782
山梨県				
415	株式会社	400-0113	甲斐市富竹新田1657-2	055-276-5958
静岡県				
401	株式会社	410-0011	沼津市岡宮736	055-921-9678
402	株式会社	426-0002	藤枝市横内2250番地	054-644-5656
403	株式会社	412-0011	御殿場市古沢986-4	0550-89-5110
422	株式会社	435-0016	浜松市東区和田町988-1	053-462-1128
402-01	株式会社	435-0013	浜松市東区天龍川町536-2	053-443-8211
長野県				
609	株式会社	384-0093	小諸市和泉639-1	0267-23-7588
613	株式会社	390-0852	松本市島立1132-21	0263-40-2100
403-01	株式会社	399-8201	安曇野市豊科南穂高1282 高藤ビル1階2号室	0263-71-2305
505-01	株式会社	383-0054	中野市立ヶ花413番地	0269-24-7124
604-01	株式会社	399-3302	下伊那郡松川町生田823の5	0265-34-1522
岐阜県				
603	株式会社	503-1382	美濃郡美濃町船橋559	0584-36-0022
605	株式会社	509-0201	可児市川合字上田2749-48	0574-62-2328
508-01	株式会社	508-0041	高山市下切町1757	0577-35-5963
605-01	株式会社	500-8132	岐阜市尼ヶ崎町1丁目18番地	058-249-5785
愛知県				
601	株式会社	463-0003	名古屋守山区下志段味路合376番地	052-736-4741
602	株式会社	498-0066	弥富市橋1丁目26番地の2	0567-68-4182
604	株式会社	448-0807	刈谷市栗刈谷町2丁目6-12	0566-22-3709
606	株式会社	440-0086	豊橋市下地町字新道29番地	0532-53-3907
607	株式会社	473-0924	豊田市花園町東大切148	0565-52-0015
608	株式会社	452-0962	清須市春日立17番地	052-401-7377
610	株式会社	442-0006	豊川市三蔵子町野添59-1	0533-86-2408
612	株式会社	494-0018	一宮市置田字砂入1936番地1	0586-62-1757
614	株式会社	470-2531	知多郡武豊町大字富貴字北側45-7	0569-74-1007
615	株式会社	444-3173	岡崎市滝町字長坂32番地の5	0564-27-7022
310-10	株式会社	460-0012	名古屋市中区千代田5-11-11 カマヤビル東館5F	052-243-9900
604-02	株式会社	448-0813	刈谷市小畑江町御茶屋下55-2	0566-26-5537
604-03	株式会社	475-0034	半田市東徳田町118番2	0569-25-0045
三重県				
611	株式会社	512-1105	四日市市水沢町361番地の1	059-329-3987
617	株式会社	510-0874	四日市市河原田町1730-2	059-325-6623
富山県				
505	株式会社	937-0009	魚津市寿町68-3	0765-22-6510
508	株式会社	932-0031	小矢部市岡260-1	0766-67-2721
509	株式会社	935-0053	氷見市万尾840番地1	0766-74-3022
石川県				
501	株式会社	924-0027	白山市相川町1824	076-276-1593
504	株式会社	920-0211	金沢市湊3丁目30-3	076-239-4510
507	株式会社	926-0828	七尾市白鳥町58-15	0767-57-2114
510	株式会社	923-0811	小松市白江町 口62番地	0761-21-0168

コード	会社名	郵便番号	住所	電話番号
福井県				
502	株式会社	910-0804	福井市高木中央1丁目3404	0776-57-1236
503	株式会社	919-0445	坂井市春江町中筋高田1-2	0776-51-3253
506	株式会社	915-0235	越前市不老町29-7	0778-43-1701
滋賀県				
701	株式会社	527-0034	東近江市沖野2丁目1番6号	0748-22-1389
京都府				
702	株式会社	614-8121	八幡市下京小宮44番地の1	075-983-9991
704	株式会社	601-8113	京都市南区上鳥羽南苗代町5-1	075-681-3431
711	株式会社	624-0101	舞鶴市宇大川182番地	0773-82-0130
大阪府				
709	株式会社	583-0005	藤井寺市惣社1丁目12-59	0729-37-0268
713	株式会社	583-0847	羽曳野市大黒159-1	0729-58-3815
703-01	株式会社	553-0002	大阪府福島区糺1-7-39-103	06-6453-8701
兵庫県				
703	株式会社	673-0433	三木市福井2265	0794-83-0162
705	株式会社	670-0981	姫路市西庄甲236-2	079-298-4650
710	株式会社	680-0857	尼崎市西向島町15-4	06-6414-2222
和歌山県				
706	株式会社	649-6326	和歌山市和佐中112	073-477-0532
707	株式会社	645-0012	日高郡みなべ町山内56	0739-84-2222
岡山県				
802	株式会社	712-8003	倉敷市水島御神町5-20	086-446-2041
805	株式会社	701-0145	岡山市北区今保577	086-241-5678
808	株式会社	701-4271	瀬戸内市長船長船1224-1	0869-66-8511
814	株式会社	700-0956	岡山市南区当新田396-1	086-24